

氏名	竹 内 幹 雄		
学位(専攻分野)	博 士(農 学)		
学位授与番号	博 甲 第 1031 号		
学位授与の日付	平成 4 年 3 月 28 日		
学位授与の要件	自然科学研究科生産開発科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)		
学位論文題目	ナシ作の展開過程と再編に関する研究 —鳥取県の二十世紀ナシを中心に—		
論文審査委員	教授 目瀬 守男	教授 岩間 泉	教授 岡本 五郎
	教授 佐藤 勝紀	教授 大崎 紘一	

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、ナシ作経営および産地の長期発展過程の「歴史的分析」および自然的適地性とナシ作経営・マーケティングの「現状分析」との2つの視点から分析を行った。

- ① 歴史的分析では、明治期から現代に至る期間を研究対象にして、外部経済条件の変化がナシ作経営や産地の発展にどのように影響をおよぼし、ナシ作経営産地がその変化にいかに対応してきたのかを明らかにした。
- ② 自然的適地性分析については、ナシ作の適地性の構造と適地について検討し、鳥取県東郷町は「適地」、東伯町および佐治村は「準適地」であることを実証した。
- ③ 経営分析では、各種自然的立地条件下の適地性にもとづいて、ナシ作経営の適正規模、適正品種・作型を明らかにし、経営発展の将来方向を明示した。
- ④ マーケティング分析では、再編期におけるナシ産地のマーケティングの方向を解明し、適地性にもとづく産地の「商品差別化戦略」を基軸にしたマーケティング活動を展開していくべきであることを明らかにした。
- ⑤ ナシ作の再編対策については、長・中・短期の産地再編対策について明らかにした。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文においては、鳥取県の二十世紀ナシを中心にして、①ナシ作経営および産地の長期発展過程の「歴史的分析」と、②自然的適地性、ナシ作経営およびマーケティングの

「現状分析」を通して、③ナシ作の再編対策を考察し、その解明に成功している。

- (1) 歴史的な分析では、明治期から現代に至る期間を研究対象にして、ナシ作の展開過程とそれに及ぼした諸要因を整理した。すなわち①自然的条件に恵まれた地域へのナシ作の導入・定着過程、②経営の成長発展に及ぼした外部経済的要因や産地の組織活動などの準内部要因を解明した。
- (2) 次に現状分析の中の自然的適地性分析では、位置、地形、地質などの自然的地域特性を整理し、①適地性の構造、および②適地性指標にもとづき調査対象地について検討し、鳥取県東郷町は「適地」、東伯町および佐治村は「準適地」であることを実証した。
- (3) さらに経営分析では、ナシ作の経営的、技術的特質を解明するとともに、「適地」である東郷町および「準適地」である東伯町と佐治村を対象に、①ナシ作経営の適正規模および適正品種・作型を明らかにし、②適正規模を決定する技術的阻害条件および、現実の経営の平均規模が適正規模より小さいことなどの経済的阻害条件を示し、さらに③ナシ作経営の将来方向を明示している。
- (4) ナシのマーケティング分析では、①ナシのマーケティングを巡る近年の動向を整理するとともに、②再編期における産地のマーケティング戦略として、特に適地性にもとづく産地の「商品差別化戦略」を基軸に市場交渉力を強め、さらに③市場別にプロジェクトチームを作ることおよび農家、産地、農協、研究機関等の役割分担のあり方を示し、産地の主体性の強化の方向を明示している。
- (5) ナシ作の再編対策については、長期および短期の再編対策を組み合わせ、①長期基本対策として自然的適地性を生かした品種・作型および土地改良などの構造的転換対策、②短期産地再編対策として、経済的変動に対応した適正規模および適正品種・作型、マーケティング戦略および各種組織の活動方向と役割分担のあり方などを明らかにした。

以上の新しい接近方法により得た基本知見は、旧来のわが国におけるナシ作経営および産地再編に関する研究水準を多いく向上させるものであり、また、果樹作一般の新しい再編論理として広く応用可能であり、したがって、本審査委員会は、本論文を学位論文に値するものと判定した。